

## 鏑木清方 下絵とスケッチ

清方のスケッチと下絵から作品完成までの過程を追う。

会期 平成13年2月24日(土)～平成13年4月15日(日)(開館日数:41日)

総入館者数 3,901人(一日平均:95人)

### 出品作品

【前期】2月24日(土)～3月25日(日)

「夏の柳井戸(柳乃井戸)」「新大橋之景(双幅)」「龍膽」「大和路の或る家」

「牡丹 一」「牡丹 二」

「初夏の雨(口絵)」「幕間(『清方美人畫譜』)」

「伽羅(下絵)」「河添の家(下絵)」「のれん(夏姿)(下絵)」「稚児桜(下絵)」「鷺娘(下絵)」

【後期】3月30日(金)～4月15日(日)

「清子四歳像」「梅蘭芳 天女散華」「牡丹 一」「牡丹 二」

下絵:「客問」「妓女像」「瀧野川観楓」「女役者衆八」「崔承喜」「夏の女客」

表紙絵(『苦樂』):「神田祭」「春雨」「草枕」「弥生」「吉野山」「高尾ざんげ」

### 関連記事

平成13年3月1日 鏑木清方記念美術館「下絵とスケッチ」(広報かまくら)



リーフレット

### 畫房雜稿

この草稿といふものは、出来ることなら本がきと區別したくないものだと常に思つてゐる。私には限らない、誰でも仕上げた本ものの制作より、きつと草稿の方に心持が良く出てゐる。下畫の時の方がよかつたとは、極まつたやうに言ひ交はされる制作後の述懐だ。そんならそんな草稿なんか作らなげりや良からうにと、専門外の人は言はれるだらうが、絹に描く時には<sup>みだ</sup>に<sup>きち</sup>素地を汚したくない、草稿は常に綺麗にばかりとはゆかない、サラサラと手綺麗に纏まる事もあれば、推敲に推敲を重ね、張り紙に張り紙を重ねて、朱線、黒線、その上に木炭で、紙の素地が分からなくなつても、尚ほ形を爲さないこともある。そんな時、直接に絹にかかつてゐたのなら、その素地は汚れて眞つ黒になつて了ふ、その上へ彩色しては、冴えた色なんかとても出は爲ない。

(『鏑木清方文集一 制作餘談』より一部抜粋)